

9. 熊本県天草市上田家文書調査

東 昇

1. 概要

天草市上田家文書は、幕府領肥後国天草郡高浜村の庄屋文書で、約 7,000 点が現存する。1997 年以来、調査を継続し、その研究成果として 2016 年に『近世の村と地域情報』（吉川弘文館）を刊行した。今年度は科学研究費基盤研究（C）「近世庄屋日記の情報構造分析による民間アーカイブズの WEB 公開」（課題番号 24K04187、研究代表：東昇）の一環として、引き続き調査を進めた。上田家資料館（熊本県天草市、株式会社上田陶石内）において、上田家文書のうち、近世の民間アーカイブに関する文書を選定し、撮影作業を実施した。

調査日程 2024 年 9 月 11 ～ 14 日

調査参加者 東昇（教員）、渡邊幸奈（博士前期課程）、渡部凌空（4 回生）、田中光徳（天草町代表区長会長）

2. 内容

上記科研の調査成果として「近世後期の庄屋兄弟日記の比較—天草郡今富村上田友三郎を事例に—」（『京都府立大学学術報告 人文』76、2024 年）をまとめた。本研究では、今富村庄屋であった上田友三郎の日記の様式と内容を、兄である上田宜珍の日記と比較し、その記録手法の特徴について考察した。特に、文化 2 年（1805）に発生した潜伏キリシタンの大量発覚事件である「天草崩れ」と類似する事例として「牛皮一件」を取り上げ、詳細に検討した。

結果、①上田宜珍の日記と比較することで、友三郎の日記における記録手法の違いを明らかにした。記事数、相互の呼称、不在時の執筆者などの点で違いが見られ、この記録手法は「天草崩れ」の吟味日記から出発し、その影響を受けていると考えられる。

②この記録手法をもとに、今富村の虎右衛門、和右衛門、伊八が関与した牛皮・牛肉売買に関する事件「牛皮一件」の経緯と実態を追った。この分析から、天草崩れ取調時の行方不明者搜索を含め、異宗に対する吟味が繰り返しおこなわれていた事実が明らかとなった。

③天草崩れの吟味過程においては、村役人による取調や本人の口書徴収、藩役人の出役や呼出による吟味に加え、内偵がその前段階としておこなわれていた。上田友三郎は庄屋就任初期にこの内偵に関わっており、その記録手法は兄の上田宜珍から学んだと考えられる。宜珍は天草崩れの村側取調の主たる担当者であり、「高浜村宗門心得違者於村方調日記」「富岡御呼出宗門心得違之者共御吟味日記」などの関連文書を作成している。これらの記録手法が、友三郎の日記にも強く影響を与えた可能性が高い。

編集後記

余裕をもって仕事に取り組みたい。一つ仕事が終わる度に今度こそはと思うが、今回も果たせなかった。文字通りバタバタ。年末から長い師走が続いている。一つの救いは、春からのフィールドワークに始まり、冬の集報に終わるこの一連の営みが、10号を越え、府大歴史学科の伝統として根付きつつあること。フィールドをご提供いただいた関係各所のご厚意に深く感謝申し上げたい。

なお本書の組版作業は、歴史学科文化遺産学コースの合同実習メニューとして学部生が Adobe 社の InDesign を利用しておこなっているが、もちろんそのままでは本にはならない。一書にまとめるにあたって力を尽くしてくれた大学院生の頑張りにも深く感謝したい。(い)

京都府立大学文学部歴史学科

フィールド調査集報 第 11 号

編集・発行 京都府立大学文学部歴史学科

〒 606-8522 京都市左京区下鴨半木町 1-5

発行日 2025 年 3 月 31 日

印刷 株式会社 北斗プリント社

〒 606-8540 京都市左京区下鴨高木町 38-2
